

科目	水辺環境学 (Water Environmental Engineering)		
担当教員	柿木 哲哉 准教授, 宇野 宏司 講師		
対象学年等	都市工学専攻・1年・後期・選択・2単位		
学習・教育目標	A4-4(100%)	JABEE基準1(1)	(d)1,(d)2-a,(d)2-d,(g)
授業の概要と方針	豊かで安全な水環境を構築するには、自然界で営まれる物理・化学現象または生物の活動について熟知しておく必要がある。また、人々と水圏との関わりが希薄になり、その要因を種々の方面から理解する。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A4-4】 海水の流動や物質の拡散について説明できる。		海水の流動や物質の拡散について説明できるか中間試験で評価する。
2	【A4-4】 水域における汚染物質の拡散, 分散現象について説明できる。		水域における汚染物質の拡散, 分散現象について説明できるか中間試験で評価する。
3	【A4-4】 密度流について説明できる。		密度流について説明できるか中間試験で評価する。
4	【A4-4】 湖沼や貯水池の水環境を構成している事項について説明できる。		湖沼や貯水池の水環境を構成している事項について説明できるか中間試験で評価する。
5	【A4-4】 沿岸域の流れについて説明できる。		沿岸域の流れについて説明できるか中間試験で評価する。
6	【A4-4】 河川の水環境を構成している事項について説明できる。		河川の水環境を構成している事項について説明できるか定期試験で評価する。
7	【A4-4】 水辺景観, 水辺と人々との関わりについて説明できる。		水辺景観, 水辺と人々との関わりについて説明できるか定期試験で評価する。
8	【A4-4】 水辺に関する時事問題について問題点を的確に捉え, 自分の考えを述べることができる。		水辺に関する時事問題について問題点を的確に捉え, 自分の考えを述べるかどうかがレポートで評価する。
9			
10			
総合評価	成績は、試験85%, レポート15%として評価する。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	「水圏の環境」: 有田正光編著 (東京電機大学出版局)		
参考書	「環境白書」: 環境省 「日本の水環境5近畿編」: 日本水環境学会編 (技報堂出版) 「河川の生態学」: 沖野外輝夫著 (共立出版) 「湖沼の生態学」: 沖野外輝夫著 (共立出版) 「河口沿岸域の生態学とエコテクノロジー」: 栗原康 (東海大学出版会)		
関連科目	水理学, 環境水工学, 都市環境工学, 環境基礎科学		
履修上の注意事項	特になし。		

